

書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力を高める外国語科学習指導の工夫 — 物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動を通して —

三次市立三次中学校 藤井 清美

研究の要約

本研究は、国内外の調査から、生徒の読解力について課題が明らかになったことを踏まえ、書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力を高める学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、本研究における「書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力」を、読んだ後、読み取った内容について自分の考えや感想、賛否やその理由を示したりなどできるように、書かれた内容を自分の体験や考えに照らして理解、評価しながら読む力であると考えた。この力を高めるために、本研究では、物語を読むこととその内容を踏まえたスキットを作ることを関連付け、生徒に読む目的を意識させたリーディング活動に取り組ませた。その結果、書かれた内容を批判的に読める生徒の数が増えた。したがって、物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動は、書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力を高めることに有効であるといえる。

キーワード：批判的にとらえる

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領外国語（平成20年、以下「指導要領」とする。）の外国語の内容（1）言語活動のウ「読むこと」における指導事項の一つに、「（オ）話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」¹⁾と新たに示されており、読後の活動を念頭に置いて自分の知識や経験と関連付け、理解、評価するような読み、すなわち批判的に読むことが求められている。これについて中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年、以下「解説」とする。）には、「『感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどする』とは、学習段階に応じて、既習の表現を用いて、読み手としての感想や意見、賛否及びその理由を表現させることであり、話の内容や書き手の意見などを適切に理解することが前提となる。」²⁾と述べられており、他領域の言語活動との有機的な関連付けが求められている。

平成24年度「基礎・基本」定着状況調査における「教科の学習に関する調査」によると、「英語の授業では、物語や説明文などの英語で書かれた文章を読むときは、書き手の伝えようとすることは何かを考えて読んでいます。」という質問項目に対し、肯定的に回答した生徒は54.7%であった。このことか

ら、指導者が、生徒に話の内容や書き手の意見をとらえて読ませるという指導を十分行っていなかったことが考えられる。話の内容や書き手の意見を読み取らせることができなければ、読後に自分の感想等を表現し合うために内容や考え方などを批判的にとらえさせることは難しいと考える。

そこで、第2学年の物語において、物語の結末を考えてスキットに書き表す活動を取り入れる。物語の結末の前までの内容と整合性のある対話を自由に創作する活動を取り入れれば、書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力を高めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 中学校外国語科教育における指導改善の方向性

平成21年のPISA調査において、子どもたちは必要な情報を取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることが苦手であるという課題が明らかになった。特に、記述式の問題に関しては、テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる問題に無答率が多かった。また、平成22年度全国学力・学習状況調査の結果において、例えば、資料や情報に基

づいて自分の考えや感想を明確に記述することなど、思考力・判断力・表現力等といった活用に関する記述式問題を中心に課題がみられた。

このような国内外の各種調査の結果を踏まえ、中央教育審議会は平成20年1月に学習指導要領の改善等について答申を行い、言語に関する能力を高めることの必要性を示した。「指導要領」では、教育内容に関する主な改善事項の第1として各教科等における言語活動の充実を挙げ、これを受けて中学校外国語科では、4技能の総合的な育成をはじめとする基本方針に基づいて改善が図られた。具体的には4領域の言語活動に新たに一つずつ指導事項が加えられ、言語活動の充実を通じて、4領域の総合的なコミュニケーション能力の基礎の育成をねらっている。

また、「解説」には、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する³⁾とあり、受信、思考、発信というPISA型読解力とも相通じた力が求められている。

2 書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力について

「批判」とは、「広辞苑」(2011)によると、「①物事の真偽や善悪を批評し判定すること。②人物・行為・判断・学説・作品などの価値・能力・正当性・妥当性などを評価すること。」⁴⁾とある。

文部科学省読解力向上プログラム(平成17年)において指導の必要性が述べられているクリティカル・リーディングは、「書かれた内容について自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判するような読み」と説明されている。

以上のことから、本研究における「書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力」とは、読んだ内容に対する自分の考えなどを示すことができるように、書かれた内容を自分の体験や考えに照らし、理解、評価しながら読む力であるととらえる。

3 物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動について

(1) 「スキット」とは

松沢伸二(2002)は、英語教育で用いるスキットを、「短い会話、寸劇」⁵⁾とし、「場面を設定して会話を実演しながら言葉を生きたものとして理解し表現することによって、文章及び音声でもより会話的

な学習をするものです。」⁶⁾と述べている。松沢(2002)によると、その形式は2人か3、4人のグループで、ごく短い会話を行うものとしている。

このことから、本研究における「スキット」とは、書かれた内容を理解、解釈し、協同的に作る英語劇とする。

また、佐野正之(1977)は、演劇的活動について3段階に分けて説明している。一つ目は、子どもが自分の周囲で進行している日常生活を観察し、それを模倣して演ずることによって学習する「ごっこ遊びのレベル」、二つ目は、物語を解釈し、そこから戯曲を作って上演する「グループでの劇化のレベル」、三つ目は、他人の書いた文章を解釈し、それに基づいて記憶や想像力を働かせ自分の感情を作り出して演じる「公演を目ざす演劇活動のレベル」とし、佐野(1977)は、中学生の英語劇としては、発達段階から考え、二つ目と三つ目の中間レベルがふさわしいとしている。また、「生徒は、『もし私だったら……』と劇中の人物と自分を想像の中でidentifyすることによって、いわば劇の中にある生を内的に体験するのであって、その体験を通して、自分と他人と社会についての思索を深め、人生を理解してゆくのです。」⁷⁾とも述べている。

本研究においては、生徒が、物語の登場人物それぞれの立場に身を置き、「自分だったらどうするだろうか」と主体的に考えてせりふを作るよう指導する。

(2) 「物語の内容を踏まえたスキット」とは

物語は、感興の喚起・獲得が目的であり、エピソードを時間順に並べ、登場人物の行動や心情について描写する文章である。

津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ(2002)は、物語が描くものが、一般には日常生活でなじみのある社会的関係や対人関係、問題解決の状況であり、語彙についても言語分析が比較的容易であること、読み手が物語についての背景知識を活かせることなどを挙げ、説明文に比べて物語の読解が比較的易しいことを説明している。

これらのことから、物語は、生徒が、書かれた内容について自分の体験や考えに照らして考え、表現するのに適した文章であると考えられる。

中学校の英語の授業で扱われるスキットの種類にはいくつかあるが、次ページの表1に示すように大きく三つに分類できると考える。

一つ目は、対話文中の単語や文章を一部置き換えるもので、主に語や連語、慣用表現の定着をねらいとし、スキットの初歩としてよく扱われている。

二つ目は、指定された語句や文を用いて対話を作るもので、主に文法事項の定着をねらいとし、実践例も多い。

三つ目は、本文内容の一部をスキットに書き表すもので、内容理解の深化を主なねらいとする。

三つ目については、本文の行間に何文かせりふを付け加えてスキットにするものや、段落毎の内容をスキットにするもの、物語の途中や結末をスキットにするものなどがあるが、実践例は少ない。

上記二つについては、主に「話すこと」「書くこと」の力を、また、三つ目については、「読むこと」の力を育成するために取り組まれる活動である。

表1 スキットの種類⁽¹⁾

方 法	ねらい	主に育成したい技能
〈語彙レベル〉 ・対話文中の単語や文章の一部置き換える。	語・連語・慣用表現の定着	「話すこと」 「書くこと」
〈文構造レベル〉 ・指定された語句や文を用いる。	文法事項の定着	
〈内容レベル〉 ・本文の行間にせりふを付け加える。 ・段落毎の内容を劇化する。 ・本文の途中を創作する。 ・本文の結末を創作する。	内容理解の深化	「読むこと」

本研究においては、書かれた内容を批判的に読む力を高めることが目的であるため、読む目的をより明確にし、「読むこと」の必然性を高めることができる三つ目の内容レベルが適当であると考ええる。

また、スキットの基となるテキストには、生徒が自分の体験や考えに照らして読み取り、それをせりふに反映できるような内容と情報量がなければならない。これらの条件と物語の特質から考えると、物語の結末の前までを提示し、その結末を創作してスキットに書き表すものがふさわしいと考える。テキストの内容と整合性のあるスキットにするため、生徒は必然的に結末前までの場面の变化や登場人物の心情を的確に読み取り、物語の内容を批判的に分析するようになる。

以上のことから、「物語の内容を踏まえたスキット」とは、結末の前までの内容から理解、評価したことをせりふに反映させて結末部分を創作する英語劇とする。

(3) 「物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動」について

文部科学省読解力向上プログラム（平成17年）には、指導の具体的方向として、テキストを理解、評価しながら読む力を高める取組、テキストに基づい

て自分の考えを書く力を高める取組、様々な文章や資料を読んだり表現したりする機会の三つを充実させることが挙げられている。

このことを踏まえ、本研究における読解指導について考察する。

一般に読解指導は、導入段階にあたる Pre-Reading、理解・思考を深める段階の While-Reading、表現を促す段階の Post-Reading の三つに分けられる。

本研究においては、Post-Reading における表現活動として、物語の内容を踏まえたスキットづくりを設定し、目的をもって読む活動に取り組ませる。物語は一貫した主題が情景描写や心情描写を通して暗示的に描かれているため、スキットを作るためにはテキストに書かれていない内容を推測して読まなければならない。そこで、本研究では、Post-Reading に至るまでのそれぞれの段階において、生徒が自分の体験や考えに照らして読解できるような学習活動を展開する。

授業では、図1に示すように、まず、Pre-Reading において生徒の興味を引き出しながら物語に対する背景知識を活性化させる。次に、While-Reading において次ページの図2に示すワークシートを活用し、概要や要点、主題を理解させ、スキットづくりに必要な情報を取り出させる。ワークシート前半では、主にテキストの情報を正確に取り出すための事実発問を投げかける。後半では、書かれた情報から推測して内容を理解する推論発問を取り入れ、登場人物の置かれた状況や心情などを分析させる。さらに、Post-Reading でのスキットづくりを意識し、書かれた情報を自らの知識や経験に関連付けて考えさせる評価発問を投げかけることで、物語の内容を批判的にとらえさせる。

このような段階的な読みを通して、生徒は、物語の内容をより身近にとらえ、主体的に考えたり、判断したりしながら批判的な読み方ができるようになると考える。

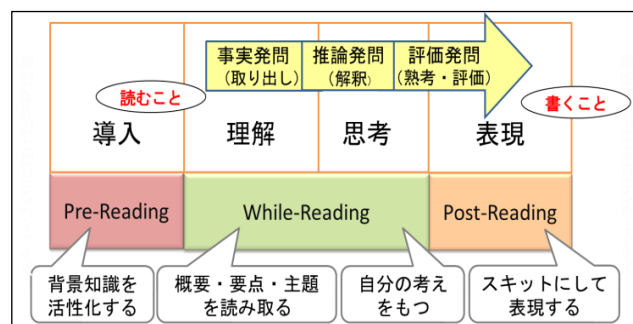


図1 リーディングにおける段階的な指導方法

やってみようプリント

読み取る力を up させよう

class number name

Step 1 資料「A Christmas present」を黙読します。その後、内容に合うように絵を並べ替えましょう。

A

B

C

D

() → () → () → ()

Step 2 もう一度読んでみましょう。次の文が本文の内容と合っていれば T、間違っていれば F を () に書きましょう。

① Ben Hillman's girlfriend had deep blue eyes. ()

② Ben Hillman usually had dinner with his girlfriend. ()

③ A little girl had thirty nine dollars. ()

Step 3 次のそれぞれの質問に答えましょう。

① ベンの恋人の身にどんなことが起こったのですか。

② ベンの恋人と少女の共通点は何ですか。

③ 少女はお姉さんについて何と言っていますか。

④ 若い女性はなぜベンの店に来ましたか。

Step 4 登場人物についてわかることを書きましょう。本文中からそれが分かるところを抜き出して書いてみましょう。

ベン _____

少女 _____

少女の姉 _____

推論発問

評価発問

Step 5 次のそれぞれの質問にあなたの考えを書きましょう。

① 少女に "Is that enough?" とたずねられたベンは、 "Well, ..." としばらく考え、 "yes, of course it's all right," と続けました。 "Well," と言ったあとベンは心の中でどんなことを考えていたと思いますか。

② 少女の姉が店にやって来たとき、彼女の青い目を見てベンはどう思ったでしょう。

③ この話の後に二人の会話が継続としたらどんなやりとりになるでしょう。書いてみましょう。

事実発問

図 2 研究授業で使用したワークシート

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

登場人物の言動に物語の内容と自分の考えを反映させるように、物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動を取り入れれば、書かれた内容や考えなどを批判的にとらえる力を高めることができるだろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
○書かれた内容や考えなどを批判的にとらえる力が高まったか。 ・読んだ後、読んだ内容に対して自分の考えなどが示せるように書かれた内容を自分の体験や考えに照らし、理解、評価しながら読むことができたか。	プレテスト ポストテスト 事前アンケート 事後アンケート
○読んだ内容を踏まえたスキットを作る学習活動を仕組んだことが、書かれた内容や考えなどを批判的にとらえる力を高めることに有効であったか。	プレテスト ポストテスト 事後アンケート ワークシート

(1) プレテスト・ポストテスト

プレテスト・ポストテストでは、次ページ図 3 に示すように、200語程度の英文を読んで問いに答える形式の筆記テスト(事実発問・推論発問・評価発問)を実施した。

表 2 は、プレテスト・ポストテストの判断基準を示したものである。

表 2 プレテスト・ポストテストの判断基準

評 価		判 断 基 準
批判的にとらえている	A	テキストに書かれた情報(物語の場面展開や登場人物の心情等)を正しく取り出して解釈し、自分の考えに照らして適切な内容の文を書いている。
	B	テキストに書かれた情報(物語の場面展開や登場人物の心情等)を正しく取り出して解釈している。
批判的にとらえていない	C	テキストに書かれた情報を部分的に取り出すことはできているが、書かれた情報から推論してその意味を正しく解釈することができていない。
	D	上記以外の答え

Pre-test

Post-test

2nd grade class _____ number _____ name _____

☆次の英文を読んであとの各問いに答えなさい。

Lisa and Joey are good friends. They sometimes go home together after school. One day, Joey said to Lisa on their way home, "I can't sleep well these days." "How come?" she asked.

He answered, "I'm in love with a girl."

Lisa was surprised. "Wow! Who is she? Tell me."

Joey looked at her and said, "I can't tell you."

Lisa didn't give up. "Well, can I guess? When did you first meet her?"

Joey answered, "Last September."

"Where did you meet her?" Lisa asked.

"In our science class," Joey said.

"Really? Do I know her?" she grinned.

Lisa asked Joey again, "How well do you know her?"

He answered, "I know her very well. We are in the same lab group."

She was excited. "Our group? So, it's Jenny or Kate." Joey said nothing.

Lisa thought for a while and said, "Jenny is very cute. Kate is kind and friendly. Which one?"

Joey didn't answer. After a while, he said, "Jenny and Kate are both nice. I like them. But...."

Lisa opened her eyes wide and looked at him. "So, you mean...."

Joey blushed. "Yes...."

on one's way home 家に帰る途中で these days このごろ
be in love with ～に恋をする surprised おどろいて
guess 推測する give up あきらめる grin にやにや笑う
lab group 実験班 excited 興奮して for a while しばらくの間
after a while しばらくして both 両方
open one's eyes wide ～の目を（大きく）見開く blush 顔を赤らめる

I 次の問題に日本語で答えなさい。

① ジョーイとリサはどんな友達ですか。 _____

② ジョーイが最近眠れないのはなぜでしょう。 _____

③ ジョーイが「彼女」と初めて会ったのはいつですか。 _____

④ ジョーイが「彼女」と出会ったのはどこですか。 _____

II 次のそれぞれの文を読んで、本文の内容に合っていればTを、違っていればFを（ ）内に書きなさい。

① Lisa and Joey are friends. ()

② On their way home, they met Jenny and Kate. ()

③ Joey is in love with Jenny. ()

④ Lisa and Joey are in the same lab group. ()

III 次のそれぞれの問いに対する自分の考えを書きましょう。

① リサはなぜ目を大きく見開いて彼を見たのでしょうか。

② なぜジョーイはリサに本当のことをなかなか言えないのでしょうか。本文からわかることを根拠にして答えましょう。

③ 本文中下から3行目、ジョーイの言葉の最後にある But の次に言葉が入るとすればどんな言葉が入ると思いますか。想像して日本語で書いてみましょう。書ける人は〔 〕の中に英語で書いてみましょう。

図3 プレテスト・ポストテスト

(2) 事前アンケート・事後アンケート

生徒の英語学習における「読むこと」に対する意識を把握するために、事前アンケート・事後アンケートを4段階評定尺度法で行った。

IV 研究授業

1 研究授業の内容

- 期 間 平成24年12月10日～平成24年12月18日
- 対 象 所属校第2学年（2学級55人）
- 単元名 「長文(物語)読解」
- 目 標

物語の内容を批判的に読み、その内容を踏まえたスキットを作ることができる。

2 指導計画（全6時間）

次	時	学 習 内 容
一	1	○本単元で身に付ける技能や内容を知る。 ○語句の意味を確認する。 ○時間軸に沿って大まかなあらすじを読み取る。 （絵の並べ替え・再話）
二	1	○本文内容を深く読み取る。 ○スキミングやスキニング等で情報を整理し、登場人物の気持ちや主題を読み取る。

三	1	○本文内容や主題について自分の体験や考えに照らして考え、論理的に再検証する。 ○スキットづくりに取り組む。
四	2	○スキットづくりに取り組む。 ○音読練習をする。
五	1	○スキットの発表、意見交流をする。 ○活動の振り返りをする。

3 授業の工夫

- 生徒が、スキットとして創作する結末部分に自分の知識や考えを照らして考えやすい内容の物語を選定する。
- While-Reading において、概要や要点、詳細をとらえさせ、主題や登場人物の心情を読み取れるような事実発問や推論発問を効果的に取り入れる。
- While-Reading 後半では、Post-Reading におけるスキットづくりを意識した評価発問を取り入れ、読み取ったことを自分の体験や考えなどに照らして考えさせる。
- スキットのせりふづくりにおいては、協同的な学習形態による他者との意見交流を取り入れ、自分の考えを支える根拠を探すためにテキストを読み返す必然性を作る。

- 5 -

V 研究授業の分析と考察

1 書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力が高まったか

(1) プレテスト・ポストテストによる分析

書かれた内容を批判的にとらえているかを検証するために実施したプレテスト・ポストテストの結果を図4のグラフ及び表3のクロス集計結果に示す。

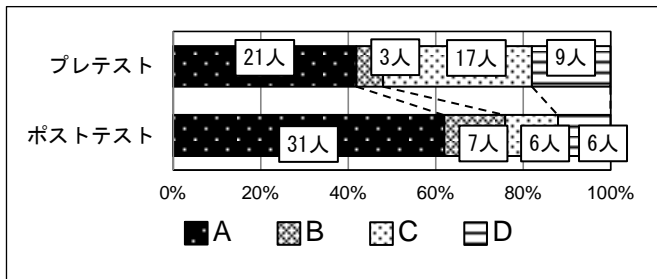


図4 プレテスト・ポストテストの結果

表3 プレテスト・ポストテストのクロス集計結果

ポスト プレ	A評価	B評価	C評価	D評価	計(人)
A評価	21				21
B評価	1	2			3
C評価	6	5	6		17
D評価	3			6	9
計(人)	31	7	6	6	50

プレテスト・ポストテストを比較すると、A評価の生徒が21人から31人に、B評価の生徒は3人から7人に、それぞれ増加した。またC評価の生徒は17人から6人に、D評価の生徒は9人から6人に、それぞれ減少し、評価を下げた生徒はいなかった。

ポストテストにおけるA評価の生徒31人のうち、1人はプレテストにおいてB評価、6人はC評価、3人はD評価の生徒であった。

プレテストでは、多くの生徒が登場人物の置かれた状況や場面についての情報を取り出すことはできていた。しかし、それらの関係性を理解して解釈することができていなかった。

ポストテストにおいては、テキストに書かれた情報を正しく解釈し、本文から根拠を抜き出して自分の体験や考えに照らすなどしながら解答している生徒の数が増えた。また、プレテストでC評価だった生徒のうちB評価に上がった5人については、ポストテストではテキストの情報を正しく解釈し、登場人物の心情を読み取ることができた。

プレテスト、ポストテストともにA評価であった

21人のうち13人は、ポストテストにおいて、答えとなる内容の文に本文中から読み取った根拠を基に理由を付け加えたり、本文の内容を発展させるなどして記述しており、プレテストにおける記述内容と比べると、更に深く読み込んだ内容になっていた。

一方、プレテスト・ポストテストともにD評価の生徒については、いずれも、情報の取り出しが正しくできておらず、単語や英文の意味が読み取れていないことが考えられる。

(2) アンケートによる分析

図5は、質問項目「物語を読むときは、その内容について『自分ならこう思う。』や『自分ならこうするだろう。』など、自分の考えや自分の体験と結び付けて（関連付けて）読んでいるか。」において、生徒の意識を調査したアンケート結果である。

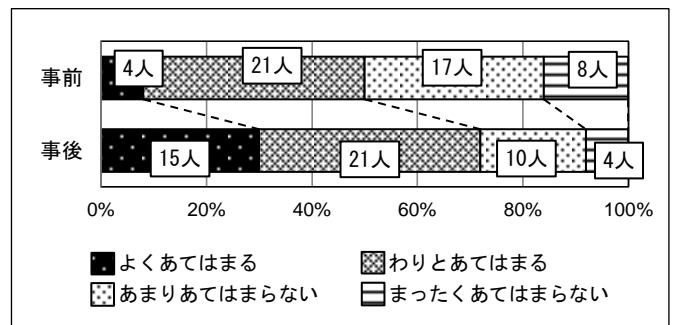


図5 事前アンケート・事後アンケートの結果

事前アンケートでは肯定的な回答をした生徒、否定的な回答をした生徒がともに25人であったのに対し、事後アンケートでは、肯定的な回答をした生徒が36人、否定的な回答をした生徒は14人であった。

以上、(1)(2)の結果から、読んだ後、読んだ内容に対して自分の考えなどが示せるように書かれた内容を自分の体験や考えに照らし、理解、評価しながら読むことで、「読むこと」に対する意識の変容が見られ、批判的にとらえる力がおおむね高まったといえる。

2 読んだ内容を踏まえたスキットを作る学習活動を仕組んだことが、書かれた内容や考え方などを批判的にとらえる力を高めることに有効であったか

(1) プレテスト・ポストテストによる分析

プレテスト・ポストテストにおける記述形式の「なぜジョーイはリサに本当のことをなかなか言えないのでしょうか。本文からわかることを根拠にして答えましょう。」という問いに対する答えについて、図4及び表3で示した生徒のうち、B、C、D評価か

らそれぞれA評価に上がった生徒、及びA評価のままであった生徒の記述内容を抜粋し、表4に示す。

表4 記述式問題に対する解答の一部

テスト 評価	プレテスト	ポストテスト
A ↓ A	ジェニーかケイトだと思っているリサに本当はリサのことだったというのは言いづらかったし恥ずかしかったから。	<u>“So, it’s Jenny or Kate!” Lisa thought for a while and said, “Jenny is very cute. Kate is kind and friendly. Which one?”</u> などとジョーイの好きな人はジェニーかケイトなのではないかとあれこれ考えているリサに、実はリサのことが好きだったと告白するのは恥ずかしかったから。
B ↓ A	好きな本人の前で緊張していたから。	<u>“I can’t sleep well. とリサのことが気になって眠れないくらい好きだから、本人の前では言えない。</u>
C ↓ A	ジェニーとケイト両方いいと思っているからなかなか言い出せなかった。	本当はリサのことが好きだから好きな本人が目の前にいるから言えなかった。
D ↓ A	ジョーイが二人の女の子に恋をしていたから。	本当は、ジョーイはリサが予想していた二人ではなく、 <u>リサのことが好きだったから、それを本人に言うのが恥ずかしかったから。</u>

(※評価はテスト全体の評価とする)

表4中下線部のように、いずれもポストテストではテキストに書かれた情報を正しく取り出して解釈しており、本文から根拠を抜き出し、自分の体験や考えに照らすなどして解答している。また、プレテストでは読み取れなかった登場人物の心情もポストテストでは読み取れていることが分かった。

(2) ワークシートによる分析

ワークシートにおける読んだ内容に対する理解、評価についての自己評価欄では、①「本文をしっかり読んで話に基づいたせりふづくりに取り組むことができたか。」と、②「どうしてこういうせりふにするのかを自分でしっかり考えることができたか。」という質問に対し、それぞれ9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。

また、質問①、②に関する自由記述欄には、「主人公ベンの優しさをスキットのせりふ “I’m satisfied.” のところに表し、全体的に優しくてあたたかい物語にしようと思った。『自分がもしこの人の立場だったら』ということを考えながら演技した。」や「ベンは恋人のことをとても愛していたから、彼女に似ていたメアリーの姉を見てこのあと彼女に声をかけるのではないかと考えてせりふを作った。」などの意見があり、物語の場面や登場人物の気持ちに自分の考えなどを照らして読んだことが分かった。

次に、グループ a, b, c によるスキット原稿を示す。

いずれもテキスト前半部の情報を適切に取り出し、そこから解釈した内容に自分たちの考えを照らして対話を創作している。

(Narrator : Mary’s sister felt sorry.)
Sister: Thank you for your kindness. But I can’t accept.
Ben: No problem. This blouse includes feeling of your little sister. (Narrator : Mary’s sister was happy.)
Sister: Thank you. You are a Santa Claus to us.
Ben: I’m not a Santa Claus. Your little sister is a little Santa Claus. This is a Christmas present from her.
Sister: Thank you! (Narrator: Mary’s sister loved Ben.)

グループ a のスキット原稿

Sister: Are you really O.K.?
Ben: Yes. I’m O.K.
Mary: My sister! (遠くから姉を探して走ってくる)
Sister: Oh, Mary! When you bought this blouse, you didn’t have enough money.
Mary: Really? I didn’t know.
Sister: But Ben said “O.K.”
Mary: Thank you very much, Ben. I can give her a good Christmas present.
Ben: You’re welcome.

グループ b のスキット原稿

Sister: But I’m satisfied with her feeling.
Ben: I’m satisfied with your feeling, too.
And your deep blue eyes look like my dead girlfriend’s eyes. Somehow I’m very happy because I can give her a Christmas present.
Sister: Really? Perhaps my sister is happy, too.
Because our mother died, I am Mary’s mother now. So she can give a present both her mother and me.
Ben: That’s right. I think that she thinks so.
Please keep this blouse.
Sister: I understand. Thank you very much.

グループ c のスキット原稿

グループ a のスキット原稿には、下線部の This blouse includes feeling of your little sister. (このブラウスには妹さんのやさしさが込められているのですよ。) や I’m not a Santa Claus. Your little sister is a little Santa Claus. This is a Christmas present from her. (僕はサンタクロースではありません。あなたの妹さんこそが小さなサンタクロースです。これはそのサンタクロースからのプレゼントでしょう。) という

せりふに、持っているお金を全部出して姉へのプレゼントを買おうとするメアリーの純粋さに心を打たれたベンの心情が表現されている。

グループbのスキット原稿では、結末の直前には登場していなかった妹のメアリーを登場させ、ことのいきさつを妹に説明する姉のせりふの中に、ベンの優しさに感謝する姉の気持ちを、またベンにお礼を言うメアリーのせりふの中に、プレゼントを贈ることができたメアリーのうれしい気持ちをそれぞれ表現している。

さらに、グループcのスキット原稿では、前半で、今は亡き恋人と同じ色の目をしたメアリーの姉に恋人の姿を重ねるベンの寂しさが表現されている。後半は、自分を母のように慕ってくれる妹の思いに触れ、改めてベンの心遣いに感謝する姉の心情が描かれている。

これらのことから、生徒は、物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動を通して、書かれた内容を理解し、「このあと自分ならどうするだろうか」と自分の体験や考えに照らしながら読むことができた」と判断できる。

(3) アンケートによる分析

スキットを作る学習活動が読む活動に役立ったかを問う事後アンケートでは、9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。またその理由として次のように回答している。

- ・物語を読んで、その内容を踏まえた上で登場人物の気持ちとかを考えて次のせりふを作るから結果的に読む活動につながった。
- ・ペアやグループ活動をすることによって、自分以外の人の意見も聞けてその物語についてさらに深く考えることができた。実際に演じることでその人物の気持ちをより想像できた。
- ・スキットづくりは読まないといけないからしっかり読んだ。
- ・自分一人では思いつかないような発想がペアの相手やグループの人から聞けて、そこからまた考えが広げられた。
- ・グループ活動を通して新しい発見があった。お話の続きとして「次はこうなるのでは」というおもしろい考えが聞けて楽しかった。

物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動について

これらの回答から、生徒は物語の内容を踏まえたスキットを作る学習活動に協同的に取り組むことで、物語の内容についてより深く読み、書かれた内容を批判的にとらえることができた」と考える。

以上、(1)(2)(3)の結果から、読んだ内容を踏まえたスキットを作る学習活動を仕組んだことが、書かれた内容を批判的にとらえる力を高めることに有効であったと考える。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 読後の活動を念頭に置き、目的意識をもって読ませることで主体的に読もうとする姿勢を引き出すことができた。
- While-Reading において、発問や協同的な学習形態を効果的に取り入れ、登場人物の心情などを読み取る活動を行ったことで、テキストを異なった角度から繰り返し読み、内容理解を深化させることができた。
- 自分の体験や考えを反映させたせりふを考えさせることで、物語の内容を批判的にとらえさせることができた。

2 今後の課題

- 書かれた内容について批判的に読む生徒の数が増えたものの、それを基に表現させる段階の指導が十分でなかった。「読むこと」同様、他領域における力を高める指導も充実させる必要がある。
- プレテスト、ポストテストともにD評価であった生徒について、概要や要点をとらえる力を高める指導が不十分であり、書かれた内容を批判的にとらえさせることができなかった。While-Reading をスムーズに行えるよう、事前に語句の確認をさせたり、未知語の意味を文脈から類推させたりするなど、Pre-Reading の活動を工夫する必要がある。
- 読んで得た知識等を踏まえて自分の考えなどを表現する活動を、3年間を見通した指導計画のもとに、段階的、継続的に行う必要がある。

【注】

- (1) 県内使用教科書、金谷憲(2009):『英語授業ハンドブック』大修館書店を基に稿者が作成した。

【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成20年 a):『中学校学習指導要領』東山書房 p.106
- 2) 文部科学省(平成20年 b):『中学校学習指導要領解説外国語編』開隆堂 p.17
- 3) 文部科学省(平成20年 b):前掲書 p.3
- 4) 新村出編(2011):『広辞苑』岩波書店 p.2381
- 5) 松沢伸二(2002):『英語教師のための新しい評価法』大修館書店 p.178
- 6) 松沢伸二(2002):前掲書 p.178
- 7) 佐野正之(1977):『英語劇のすすめ』大修館書店 p.14